

読

YOMIKYO



Yrs.
1962-2022

響

悲しみは咲くこともできる。

指揮

トマーシュ・ネトピル

Conductor= TOMÁŠ NETOPIĽ

ウィーン国立歌劇場などで活躍するチェコの俊英

ヴァイオリン

ヴィクトリア・ムローヴァ

Violin= VIKTORIA MULLOVA

常に進化し続ける世界最高峰の“ヴァイオリンの女王”

ショスタコーヴィチ

ヴァイオリン協奏曲第1番

イ短調 作品77

SHOSTAKOVICH: Violin Concerto No. 1 in A minor, op. 77

モーツァルト

交響曲第25番

ト短調 K. 183

MOZART: Symphony No. 25 in G minor, K. 183

ヤナーチェク

狂詩曲「タラス・ブーリバ」

JANÁČEK: Rhapsody "Taras Bulba"

読売日本交響楽団 第657回 名曲シリーズ

2022 **12.2** 金 19:00 サントリーホール

S ¥7,600 A ¥6,600 B ¥5,600 C ¥4,100

Popular Series No. 657 / Fri. 2 Dec. 2022 19:00 / Suntory Hall

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休)

主催：読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成：文化庁文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

チェコの俊英ネトピルによる 劇的なヤナーチェク

ムローヴァ、ショスタコーヴィチに思いを込める

ウィーン国立歌劇場などで活躍するチェコの俊英ネトピルが、2019年以来、約3年振りに登場。《名曲シリーズ》では、得意とするヤナーチェクの管弦楽曲とモーツァルトの交響曲などを披露する。

メインの狂詩曲「タラス・ブーリバ」は、チェコ生まれのヤナーチェクが、ウクライナに生まれたニコライ・ゴーゴリの同名の小説に基づいて作曲したもの。17世紀に実在したウクライナのコサックの隊長タラス・ブーリバとその息子たちの死を描いた3つの楽曲で構成されている。随所に現れる甘い旋律、パイプ・オルガンによる印象的なレチタティーヴォ、ポーランドを表す躍動的なマズルカ、吊いの鐘の音などが織り成され、金管楽器の堂々たる咆哮が加わって情熱的なクライマックスが築かれる。この極めてオペラティックな作品を、ヤナーチェクの歌劇にも精通しているネトピルが表情豊かに描きあげる。

モーツァルトの交響曲第25番は、モーツァルトの交響曲の中では数少ない短調の作品。映画「アマデウス」の冒頭のシーンで使われるなど、広く親しまれている。ネトピルのタクトは、作品の様式美を示しながら、陰影を絶妙なバランスで浮き彫りにするだろう。

前半には、世界最高峰の“ヴァイオリンの女王”ムローヴァが登場。チャイコフスキー国際コンクール優勝後、1983年にロシアから亡命し、以後アバド、マゼール、メータ、ムーティ、ブーレーズ、小澤征爾、ラトルらの指揮で、ウィーン・フィルやベルリン・フィルなどと共演するなど、第一線で活動している。ショスタコーヴィチの協奏曲第1番は、プレヴィン指揮との1998年の録音ながきにわたり高い評価を受けているが、今彼女がどのような演奏を繰り広げるのか注目だ。ムローヴァは、作曲家が曲の奥に潜ませた皮肉や苦しみや叫びを炙り出し、冷徹さを持ちながら作品の神髄に迫るに違いない。



指揮
トマーシュ・ネトピル

シンフォニーとオペラの両方で国際的に活躍するチェコの俊英。2002年の第1回シヨルティ国際指揮コンクールで優勝。プラハ国民劇場の音楽監督などを歴任し、現在ドイツの名門エッセン歌劇場とエッセン・フィルの音楽総監督、チェコ・フィルの首席客演指揮者を務めている。これまでに、ベルリン・フィル、バイエルン放送響、ウィーン響、ドレスデン国立歌劇場管、バリ管、ロンドン・フィルなどに客演。オペラではウィーン国立歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン国立歌劇場、パリ国立オペラなどで活躍している。ヤナーチェク、マルティヌー作品などを得意とするほか、モーツァルト、ワーグナー、R.シュトラウス作品などでも高い評価を得ている。



ヴァイオリン
ヴィクトリア・ムローヴァ

上品な深みのある美しい音、完璧な技術、深い知性を兼ね備えた現代最高峰のヴァイオリニスト。モスクワ音楽院で学ぶ。1980年シベリウス国際コンクール及び82年チャイコフスキー国際コンクールで優勝し注目を集め、83年の西側への亡命は大きな話題となった。これまでに、アバド、マゼール、メータ、ムーティ、ラトル、小澤征爾らの指揮で、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロンドン響、ボストン響など世界の一流楽団と共演を重ねるほか、ザルツブルク音楽祭など数々の音楽祭にも出演。バロック音楽から現代音楽まで幅広いレパートリーを誇る。CD録音では、フィリップスやオニックス・レーベルなどから数多くリリースしており、何れも高い評価を得ている。

読売日本交響楽団 第657回 名曲シリーズ

2022年 12月2日(金) 19時開演

サントリーホール 東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合がございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyoku.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyoku.or.jp/>